

第二学年 組 国語科学習指導案

指導者

単元名 漢詩に親しもう

教材 「漢詩の風景」

一 指導事項

第二・三学年 「C読むこと」 ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

「言語事項」(1) ウ 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を

深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。

←

*新学習指導要領

第二学年 「C読むこと」 (1) ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にし

て自分の考えをまとめること。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

イ 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像すること。

二 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語事項
① 漢詩に興味を持ち、その内容をとらえようとしている。	① 漢詩の表現を手がかりにして、情景や昔の人の心情を自分の言葉でまとめることができる。	① 漢詩特有の表現や語句の意味を理解することができ

三 単元について

○ 本単元の指導事項として、第二・三学年 「C読むこと」ウ 「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。」を考えている。

生徒は、一学年で故事成語を学習し、それらの多くの成語が現在の日常生活の中に息づいていることを感じ取った結果、古典と現代との結びつきに気付いている。この一学年での学習をふまえて、二学年では、漢詩特有の構成や展開、調子等を学習して、漢詩の情景や背景などを読み取り、作者の心情を想像することによって、漢詩に表れているものの見方や考え方にふれる学習活動を設定するこのような学習によって、生徒は現代社会にも通じるものを感じ取り、自己の生き方を豊かなものにしていくやすがにすることができると考える。

○ 本学級は、男子 名、女子 名の計 名の生徒数である。事前調査によると、一学年で学習した故事成語については、「書き下し文がすらすら読める」「だいたい読める」という生徒が約 割、「故事成語の表す意味がわかっている」という生徒が約 割であったが、言葉の意味を暗記しなければならぬと思っており、古典の学習に負担を感じている生徒が多かった。また、「古典の学習が好き」と答えた生徒は 名(約 %)である。その理由は、「すらすら音読できるのが楽しい」、「内容が理解できると楽しい」、「現代語訳するのが楽しい」などであった。「古典の学習が嫌い」と答えた生徒の 割は、「古文が読みにくい」、「意味がよくわからない」をその主な

理由としている。そこで、課題としては、音読ができるようになることによって、古典への抵抗感を軽減することと、古典内容を理解し、現代にも通じるものがあることに気づくことによって、古典に興味・関心をもつようになることが挙げられる。

○ 以上のことから、単元「漢詩に親しもう」を設定する。生徒の実態から、古典学習への抵抗感を軽減させるために、まず、すらすら音読できるようにすることが肝要だと考える。とりわけ、漢詩は特有の調子をもっており、繰り返し音読させるには、適したものである。したがって、指導にあたっては、読みに慣れさせることから始める。音読を繰り返すことによつて漢詩に親しみをもたせ、訓読の仕方や漢詩特有の調子をつかませる。次に、李白の『静夜思』を一斉学習形態で学習させる。情景を読みとらせた後、それに基づいて、訳詩を作らせる。そうすることによって、作者の思いを感じとらせ、漢詩への興味をもたせたい。

さらに、『静夜思』で習得した方法を応用して、教科書教材の『黄鶴楼』をグループで漢詩を読み味わう活動を行わせる。その後、教科書教材の『春暁』『絶句』から一編を選ばせ、これまでの学習方法を活用させて個人で漢詩を読み味わわせる。

漢詩学習のまとめとして、四編の漢詩を読み味わって、昔の人のものの見方や感じ方がどのようなものであったかをまとめさせ、現代にも通じるものがあることを感得させたい。

四 単元の指導計画・評価計画

指導事項 第2・3学年「C読むこと」 ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

- 単元の評価規準
- 漢詩に興味を持ち、その内容をとらえようとしている。
 - 漢詩の表現の特徴を手がかりにして、情景や昔の人の心情を自分の言葉でまとめることができる。
 - 漢詩特有の表現や語句の意味を理解することができる。

配時	具体的評価規準 (評価の方法)	学習活動(言語活動)	指導上の留意点	(関心・意欲・態度)	(話す・聞く、書く、読む、知識・理解・技能)	
					おおむね満足できる状況【B】	十分満足できる状況【A】
1	関：漢詩に興味を持って、音読しようとしている。 (様相観察) 読：漢詩特有の調子を生かして読むことができる。 (様相観察・ワークシート1分析)	1 学習のねらいや流れを確認する。 2 漢文、漢詩の基礎知識を知る。 3 李白の「静夜思」を音読する。	○古典の学習を振り返り、ねらいを理解させる。 ○主な詩人や漢文の基礎知識を理解させる。 ○音読を繰り返し、読みに慣れさせる。	○繰り返し音読し、文の読み方を理解しようとしている。	・書き下し文で読むことができる。	・訓読文で読むことができる。
1	言：漢詩の基礎知識を想起できる。(ワークシート2分析) 読：漢詩の内容を理解した訳詩を作り、作者の思いを表現できる。(ワークシート3分析)	4 漢詩の知識を確認する。 5 「静夜思」を音読し、情景を理解し、訳詩を知る。 6 訳詩を作り、作者の思いを考える。	○さまざまな訳詩を紹介する。 ○内容をふまえた上で、自由に書かせる。		・漢詩の基礎的な語句を覚えており、訳詩を作ることができる。	・漢詩の基礎的な語句を覚えており、訳詩を作り、作者の思いを表現できる。
1 本 時	読：漢詩の内容を理解した上で訳詩と手紙を書き、作者の思いをとらえることができる。(ワークシート4分析)	7 李白の「黄鶴楼～」を音読する。 8 背景や内容を理解し、訳詩を作り、発表する。 9 「手紙」を書き、作者の思いを考える。	○背景を解説文をもとに理解させる。 ○作者の思いを入れながら訳詩を作るように促す。 ○李白の立場になって、手紙を書かせる。		・訳詩をふまえて、作者の思いを手紙に書くことができる。	・訳詩をふまえて、作者の思いに共感しながら手紙を書くことができる。
1	読：漢詩の内容を理解した上で訳詩を作り、作者の思いをまとめることができる。(ワークシート5分析)	10 二編を音読し、その内の一編を選び、訳詩を作る。 11 グループで発表し合う。 12 作者の思いを考える。	○背景を解説文をもとにして理解させる。 ○同じ考えや異なる考えをとらえさせる。		・自分で訳詩を作り、作者の思いや内容を理解することができる。	・自分で訳詩を作り、作者の思いや内容を理解し、友人の考えと比較して相違点や類似点に気づくことができる。
1	言：訓読について理解している。(ワークシート6分析) 読：漢詩を読んで、昔の人の心情をまとめることができる。(ワークシート7分析) 関：今回の学習を通して、古典への関心を高めている。 (自己評価分析)	13 訓読の基本的な知識を確認し、音読する。 14 四編の漢詩を読み味わって、昔の人と今の人のものの見方や感じ方を比較する。	○返り点や送り仮名など、訓読についての基本を確認させる。 ○自分の体験を想起させる。	○他の古典を読み、自分の思いと比較しようとしている。	・昔の人の思いに気づくことができる。	・昔の人の思いと今の人の思いでものの見方や感じ方に共通するものがあることに気づくことができる。

☆ C の状況の生徒への手だて 作者の思いと同様の体験が自分にもあるかどうか想起するように促す。

1 本時の具体の評価規準・評価方法
漢詩の内容を理解した上で訳詩と手紙を書き、作者の思いをとらえることができる。

〈ワークシート4分析〉

2 資料等

- ①ワークシート4
- ②黄鶴楼の写真
- ③自己評価表

3 本時の指導計画・評価計画

過程	学習活動・内容 主な言語活動	指導上の留意点	資料	Aの状況・Bの状況 Cの状況の生徒への手だて	形態	配時
導入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確認する。 目標 訳詩や手紙を 書くことによって、 作者の思いをとらえ よう。	○本時の目標を確認 する。	①		一斉	2
展開	2 範読を聞いて、音読を する。 3 解説文を読み、内容を 理解する。 4 訳詩を考え、まとめる。 5 OHPを使って発表す る。 6 発表をふまえて、作者 の思いをまとめる。 7 李白から孟浩然への手 紙を発表する。	○音読して、聞いた ことがある言葉があ るか確認する。 ○難解な語句につい ては説明を加える。 ○グループで訳詩を まとめさせて一つ作 る。 ○班を戻させ、発表 者以外は、聞きなが らメモをとらせる。 ○李白の立場になっ て、孟浩然への手紙 を書かせる。	① ② ① ① ①	A 訳詩をふまえて、作者の 思いに共感しながら手紙を書 くことができる。 B 訳詩をふまえて作者の思 いを手紙に書くことができる。 Cの状況の生徒への手だ て 作者の思いと同様の体験 が自分にもあるかどうか 想起するように促す。	一斉 一斉 一斉 個 一斉 グル ← プ 個	3 7 3 5 6 10 5
まとめ	8 本時の活動を振り返る。 9 次時の予告を聞く。	○作者の思いをとら えることができたか 確認させる。	③		一斉	1